

インフラの 町医者

全9回の1
をめぐって
第8回建設トップランナーフォーラムより

7月2日に東京都港区の建築会館ホールで開かれた第8回建設トップランナーフォーラムの開催に当たって、日本青年会議所の田井慶一郎2013年度建設部会長が開会のあいさつ、主催者である建設トップランナー倶楽部の米田雅子代表幹事が趣旨説明を行った。

田井建設部会長



地域で「町医者像」を確立

田井慶一郎建設部会長は、周りの幸せを願う「タン王国」の思想に触れ、

また、国土技術研究センターの谷口博昭理事長が来賓としてあいさつした。

「今の日本は他人の幸せを願う考えが希薄になっていく」と指摘。その上で、災害大国の日本で、建設業同士のネットワークを最大限に生かし、地域に必要な存在となることは必須。そのネットワークは災害時だけでなく、老朽化建物への対応など、新たなビジネスモデルの構築にもつながると強調した。

そして、フォーラムのテーマである「インフラの町

医者」という言葉には、建設業が取り組むべき役割が示唆されており、各地域で継承可能な「町医者像」を確立したいと述べた。

◆ ◆

今回のフォーラムについて米田雅子代表幹事は、建設業の役割として「地域防災の最前線での活動」「老朽化した社会インフラを守る」「複業化による産業創出」の3テーマに焦点を当てると説明。日ごろから地

米田代表幹事



「複業化」展開への役割大

域の役に立ち、災害時にも頼りにされる「町医者」になることが重要だとした。東日本大震災発生直後、初動対応に尽力した地域建設業の約6割が、発災からわずか4時間以内に道路啓開を開始したことを振り返り、「防災にとって地域の建設業が不可欠であることは間違いない」とあらためて強調した。

また、老朽化した地域の社会インフラを日ごろから点検し、適切な維持管理を行うことも建設業の大きな責務だとし、地域を熟知した建設業の必要性を強く訴えた。

さらに、本業の建設業を軸にインフラを整備・維持しながら、福祉や環境、農業、林業など新しいビジネスを行う「複業化」に挑戦し、さまざまな取り組みを展開することが地域に必要な雇用を生み出すとし、「複業化に取り組む建設業

が果たす役割は大きい」と述べた。

谷口理事長



若手技術者の確保不可欠

「一定の臨床経験が必要だ」とし、若い技術者が建設業界に入り技術を継承することや、技術者を育成する地域建設業を持続させることが不可欠だと語った。また、東日本大震災直後

まえ「多様化するインフラの需要に対応するためには、技術者の確保と育成が大切だ」と、地域に根差す建設業が持続できるビジョンの必要性を強調した。

谷口理事長はインフラの新設、維持管理、復旧・復興に対し「ライフサイクルコストの観点から、現場に於いて適切な措置を取るには、町医者のようなカルテに基づいた診断が大切である」と主張。そのためには「くしの歯作戦」で初動活動が迅速にできたのは「日常的に維持・管理し、現地在熟する地方整備局と地域の建設企業が存在していたからだ」と指摘。その上で、地域の安心と安全を確保するためにも「プロジェクト機関である地方整備局と地域建設企業との継続的な連携が必要であり、財源に裏付けされた明確なビジョン（ヒックピクチャー）が不可欠だ」と述べた。